



ニッポン
ドクター和の

臨終図巻

長尾和宏(ながお・かずひろ) 医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終図巻』として単行本化された。関西国際大学客員教授。

「銀河鉄道999」のメーテルのモデルだったと知り驚きました。確かにメーテルのような神秘性があり、そして白ユリのような、たおやかな美しさもあって…誰もが憧れる女優さんだったでしょう。その花が静かに落ちるようにして、逝ってしまいました。女優の八千草薫さんが10月24日逝去。享年88。死因は膵臓(すいぞう)がんとの発表です。

130 女優 八千草薫



2017年の調査では、膵臓がんは肺、胃、大腸に次いで臓器別がん死亡率第4位。一方、同罹患(りかん)率では5位以内に入っています。つまり、治るがんが増えた現在においても、膵臓がんだけは早期がんで見つかりにくく、5年生存率も約7%と低いままのガンです。八千草さんは、2年前の人間ドックで膵臓がんが見つかったそうです。そして、昨年1月に膵臓の全摘手術を受けました。80代の後半でがん手術? これに対しては、医療者の中でも賛否両論、意見が分かれるところでしょう。80代でどこかにがんが発見された場合は、積極的な治療はせずに経過観察のみで過ごす、いわゆる「天寿がん」となるケースもたくさん経験します。

しかし、八千草さんは80代後半とはいえ、現役女優として

元気に舞台や映画をこなしていました。だから全摘という大きな手術を乗り越えられる体力も気力も十分にあると判断されたのでしょうか。

昨今、高齢者は体力や栄養状態において個人差が大きく、年齢だけで何かを制限する時代ではなくなったようです。60歳のような80歳もいれば、その逆もいます。

八千草さんは術後順調に回復していましたが、今年2月に肝臓への転移が見つかり、70年を超える女優人生で初めて仕事を降板。最期まで女優復帰を目指していたそうです。死の前日はマツタケごはんを食べ、死の2時間前まで会話ができたといいますから、見事な平穏死。どこかの時点で、積極的な治療をやっていったものと思われれます。

80歳を過ぎても、希望を忘れずに病と共存する大切さを教えてくださいました。花のようなあの笑顔で、銀河鉄道に乗ったのでしょう。

膵臓がんになる人が年々増えています。食生活の欧米化が増加の原因と言われています。同時に、糖尿病の増加がその背景にあります。糖尿病から膵臓がんに移行する人が実に多いのです。現在、わが国に糖尿病の人は約1000万人いると推定され、まさに国民病。糖尿病の予防と改善が一番の膵臓がん予防

病と共存する大切さを教えてくれた